

CRIIRAD
Commission de Recherche et d'Information Independantes
Sur la Radioactivite
471 avenue V. Hugo-26000 Valence
Site Internet: www.criirad.org

Contact: Romain Chazel
06.88.94.73.07 / 04.75.98.58.01

「CRIIDADーバンダジェフスキ」研究所をベラルूसに設立すること

チェルノブイリ原発の災害の犠牲者と放射線汚染の被曝を受けた人々を援助するための国際的な計画；

- * チェルノブイリ原発事故によって多大な被害を蒙った国家、ベラルूसにおいて、放射性物質を慢性的に摂取したことによる病理学的な影響を追跡調査するための研究を設立する。
- * この研究所は、ガリーナ バンダジェフスキ医師とユーリ バンダジェフスキ教授夫妻が主導する。
- * この研究所は、フランスのヴァレンスにある放射線分析研究所と同様に、研究の能力、独立性、透明性についての倫理的な保障を基にCRIIRADにより管理される。

このような理想は現実のものとなりうるものであり、それは可能である。

1986年、フランスで公式に発表された情報の欺瞞にショックを受けた少数の市民は、政府機関から完全に独立に、人々の環境と食品の汚染状況について、信頼できる情報を探しているすべての人々に、役立つような専門研究所を設立することを決意した。

これは無謀な賭けであったが、それは現実のものとなった。

フランス国民は存在しており、必要な財政援助を与えてくれた。18年後、CRIIRADの研究所がフランス各地に設置され、外国にも、これが設置されることになったのだ。

2005年、CRIIRADは新計画を立ち上げることになった。CRIIRADは、ユーリ バンダジェフスキと彼の妻、ガリーナ バンダジェフスキに彼らの研究を続行させるために、ベラルूसの首都ミンスクに生物医療研究室を創設して、緊急の救援を求める訴えを受けたのである。一ヶ月前、是非フランス語に訳して欲しいという、ユーリの手で書かれた一通の次のようなファクスが、我々の元に届いた。

CRIRADの長殿

私をCRIRADに受け入れてくれるように訴える。

私はCRIRADに所属して、働きたい。

ユーリ バンダジェフスキ 28・01・05

この1月にベラルーシへのCRIIRADの任務を帯びた旅行と、教授とCRIIRADの副主任の間で交わされた定期的な電話連絡の結果、計画の詳細が以下のように決定された。

- 1) CRIIRADは、ガリーナ バンダジェフスキ博士を先ず雇用する。(彼女がリヨンのシャルボニエルで、4月1-2日に開かれる国際会議に出席するためにフランスを訪問する時に、雇用契約の署名を行う)。次いでCRIIRADは、ユーリ バンダジェフスキ教授が釈放(あるいは、彼が条件付の保釈)となる時点で、遅くとも、2007年の初めに、彼を雇用する。
- 2) CRIIRADは、放射線汚染の健康に対する結果についての真実に関する彼の闘争において、教授を支持してくれたすべての人々に対して、国際的な支持を訴える。実験室の購入、運営、装置のために必要な基金、11万ユーロを集める必要がある。

この計画を実行するために、我々を支援して頂きたい。

注意；この要請は、一般に対して公開するのに先立って、諸組織に訴えるものとする。正式な連絡は、支援に対するインターネットのホームページにおいて、前もって公表される予定である。

1. CRIIRADの説明文書

CRIIRADは、4年間に亘って、チェルノブイリ大災害の最大の被害を蒙った国家ベラルーシの科学者に支援を行ってきた。幾つかの科学プロジェクトが、ヴァシリ ネストレレンコ教授を長とする放射線防護研究所と共同で、現在でも汚染地区で生活することを強いられている人々の援助を目的として、開始された。何の証拠もなしに、8年間の刑務所に幽閉された、ゴメルの医療研究所の旧所長であったユーリ バンダジェフスキ教授の支援するための情報と援助に関わる活動も実現された。(この詳細については、インターネット：www.criirad.orgを参照のこと)。

2004. 5. 28以来、ユーリ バンダジェフスキは追放処分となり、彼の個人状況は一時的に好転している。ユーリ バンダジェフスキはまだ自由な身ではないが、チェルノブイリの被害を受けた人々の健康障害について科学的な研究を続行することを希望しておられます。彼は、持続した信念を、現在も持ち続けています。1990年、チェルノブイリ事故の4年後、病理学的に解剖学を専攻する若い教授は、最も汚染の激しい地域の中心で、研究に没頭していたのでした。

そこで、ゴメルの医療研究所で彼の率いるチームと共に1999年まで、彼は内部被曝の健康に対する影響について、知識を深めておりました。統計学的分析と実験的な指標を基に、発病した組織(心臓、肝臓、腎臓、消化器官等の)中のセシウム137の異常濃度と関連付けて、多くの病気全体の物理病理学を明らかにしました。

分娩前後の乳児死亡や遺伝性の奇形の増加と放射線の汚染の間の関係を理解するためには、多くの研究がなされなければなりません。新しい遺伝病や糖尿病、動脈硬化、高血圧や心筋梗塞(これらはだんだん若年に、実に、幼児にまで出現している)における放射性元素の関与を確かめること、セシウムがどのようにして子供の心臓や腎臓の病気を起こし、中枢神経系や視覚の悪化を起こすのかを明らかにする必要があります。

ベラルースの官権が、ユーリ バンダジェフスキ教授を追放処分に処して以来、彼は、科学研究の共同協力を行いたいとCRIIRADに申し入れてきた。

ベラルー스에서生体医療の研究実験室を創設し、バンダジェフスキ教授をそこで雇用する計画について考慮を重ねた結果、これは実現することとなった。彼が現在の追放状態にあり、場所的にも離れていることなどの困難にもかかわらず、バンダジェフスキ教授の将来の活動に関して、短期間で完全な合意に達した。

CRIIRADの代表が、2005年1月の末にミンスク（ベラルースの首都）を訪問し、小児科の専門医であるバンダジェフスキ教授の妻に会い、ベルラド協会と科学協定関係を結ぶ意図を固めた。こうして、ベラルースの責任者（首相と外務大臣）に「我々は、ベラルーシ共和国の国内に科学研究実験室を創設し、財政支援を行うための契約をバンダジェフスキ教授と交わすことに署名しようとしている」と、彼がその実験室の長となる予定であることを宣言した。

このような野心満ちた計画の実現のための経費を準備し、CRIIRADがこの新しい活動を完全な状態で発足するために、広い援助の要請を訴えたい。

CRIIRADは、ここに、チェルノブイリ大災害の人々の健康に対する影響を独立して研究することを支持する人々（個人、協会、議員、地域代表）に呼びかけを行うものである。

新しい実験室で行われる活動は、独立した情報と研究を目的とするCRIIRADの基本使命を完全に適合している。ベラルー스에서行われる活動は、CRIIRADの将来のためにも基本的な重要性を持つものである。チェルノブイリ大災害の本当の衝撃をいつに日にか、完全に知りたいと思うならば、我々は甚大な被害を蒙った国家で、信頼できる情報源を持つことが必要である。しかし、現在はこのような状態ではない。我々に届けられるチェルノブイリの大災害の総括は、親原子力組織の網を通して到達するのだ。示すことが出来る具体的なものを持たずに、彼らの数値と研究の重さに立ち向かって、反対を唱えることが出来るだろうか？

1986年、放射線量の数値を過少に発表し、フランス市民の健康の保護を拒んだ政府に対して、放射線量の測定を専門とする実験室を作る必要を市民が感じ、CRIIRADを創設したのは、同じ動機であった。

今日、また歴史は繰り返される。今回の我々の計画は、1986年当時と同じく、知る権利に対する意欲を動機とするものである。このような局面において、人々の意欲が高みに達することを、強く希望するものである。

2. ユーリ バンダジェフスキ教授からの手紙（要約）

2005年2月16日

親愛なる友に！

個人、かつ、職業人としての私の計画は、現在、監視付の住宅に捕らえられている状態に直接に影響を受けるものです。

裁判所において私に対して言い渡された量刑による私の処遇、人権の尊重について官憲

の私に対する態度を考える時に、近い将来、私の生活状態が改善されると期待することは無理であるのは明らかです。私の刑は、2007年1月6日に終了し、その日が私の帰点となります。私は私の原則に忠実であることを宣言いたします。科学研究のためのふさわしい状態を欠いていたにも拘らず、私は、研究を継続するために出来るだけの努力を行ってきました。私の援助に尽くしてくれた方々と組織に感謝いたします。

私の人生の8年間の間、私の考えは、チェルノブイリ災害によって、人体が受けた放射線被曝の影響についての研究を巡っておりました。これは研究と呼ぶにはふさわしいものではなく、負うべき十字架であり、私の人生の使命であります。刑務所では、臨床研究を続けることは不可能であり、実験室で動物を検査することも出来ないため、私は科学論文を書くことに努力を集中し、人体と動物に対する放射性セシウムの影響について考えておりました。1990年から1999年にかけて、ゴメル医科研究所における学生達と共に共同で行った研究結果の分析を行っておりました。

2001年から2004年、私が収容されていたミンスクの刑房では、私は私の回顧を注意深く日記に記録しておりました。その後、村の監視付き住宅に移されてから、その回顧を基に、「私の生涯の哲学」という書名の本を書き始めました。それは自叙伝であり、科学上の最も顕著なノートであり、刑房で書いた記事を含むものです。現在、この本は殆ど完了しました。その発表の仕方について現在考えておりましたが、CRIIRADの友人にその出版を託したいと思えます。放射線被曝に常に、曝されている人々の運命に無関心ではない人々にとって、この本が興味を引くものであることを期待しています。

CRIIRADが、チェルノブイリ災害の健康に対する影響の研究結果の解釈について、妥協せず努力を重ねている人々を、一堂に集めることが出来ればよいと考えております。放射線の有害な影響を一般に広く明らかにしてきたCRIIRADの活動は、尊敬に値します。CRIIRADの活動は、私の信念にも共通しているものです。私が協力したいと思っているのはこの組織であり、私の科学研究は彼らと共同して進めたいと思えます。CRIIRADと組んで、小さな実験室を創設することは、私の考え方、および、仮定を検証して、これがやがて、大きな科学研究として発展するであろうと期待します。この計画は、私に希望と、生き、研究する欲望、生命に対立する者と議論を戦わせる欲望を、私に与えるものとなるでしょう。

このように言うことによって、真実のための私の戦いを援助してくれ、又、援助を続けてくれている他の協会や資金を、怒らせる積りではありません。私の主たる活動は、放射性元素を吸収した器官に起こる病理過程に関する研究なのです。これは、財政的に利益を生む仕事ではなく、商業的な利益を持つ人の関心と呼ぶものではありません。しかし、同時に、このような研究の結果から多くの計画が依存し、派生することになるので、その研究は極めて重要なものであります。（・・・）

監視付き住宅の事務局が、条件付で私を解放することを拒否した（この1月31日付）ことは、私の生命のみならず、何百万人もの人々の生命に関わる重大問題でもあります。（・・・）現今、技術の発展は、精神的な価値に基づかないものであり、利益と財政的な繁栄を求めるものであるが故に、人類に敵対しております。原子力エネルギーの発展は、特徴的な例です。物質的に豊かであることを求める人の競争は、この巨大な技術進歩を、破壊の手段に変質させてしまいました。原子兵器の前で、また、電気を生産する原子炉の前で、人々は原子力の危険の前に自身を防護することが出来ず、立ち尽くしております。

人類は原子の怪物を作り上げたのですが、これを制御することを知りません。このことから、人類の物理的、かつ、モラルの大きな苦悩が引き起こされています。原子力を前にして、我々が社会行動を変えないならば、その苦悩はもっと大きなものとなるのです。

ユーリ バンダジェフスキ教授

更なる情報を必要とされる方は、Romain Chazel宛に、ご連絡ください。

06.88.94.73.07/04.75.98.58.01

bureaucriirad@freesbee.fr (又は contact@criirad.org)

また、設立資金の寄付については、以下の連絡先にご連絡ください。

CRIIRAD 471, avenue Victor Hugo 26000 Valence

(laboratoire CRIIRAD/Bandazhevsky と御記し下さい)